

越境大気汚染と酸性雨 – 現場から将来予測まで –

日時：平成28年11月8日(火) 13:00~17:40

場所：日本学術会議講堂

(東京メトロ千代田線「乃木坂」駅⑤出口徒歩1分)



開催趣旨：大気汚染や酸性雨は、その影響が国境を越えて広がり、対策に国際的な取組が必要な地球規模の環境問題です。例えば大気汚染の光化学オキシダントの主成分であるオゾン、生物に様々な影響を及ぼし、将来の生態系や食料生産に対する大きな脅威となっています。今後、特に経済発展の著しいアジア地域において、大気環境の急激な悪化が危惧されることから、その実態の把握や生物への影響評価、将来予測をすることは、対策を考えるうえで必須となります。そのためには、分析、観測、モデル、遺伝子から生態系まで様々なレベルでの影響評価など広範な分野にわたって研究が行われる必要がありますが、まだ知見の蓄積が不十分な分野もあり、総合的な理解には至っていません。本シンポジウムでは、観測とモデルの連携による東アジア越境大気汚染の総合的な研究についての紹介に加えて、分析や影響評価の手法、植物を中心とした大気汚染被害の現場における研究の現状についても紹介し、今後の研究の方向性などについて議論します。

司会：青野光子 (国立環境研究所主任研究員、学術会議連携会員)

13:00 開会挨拶 大政謙次 (東京大学名誉教授、学術会議第2部会員・副部長)

座長：平野高司 (北海道大学教授、学術会議連携会員)

13:10 講演「観測とモデルの連携による東アジア越境大気汚染の総合的研究」

永島達也 (国立研究開発法人国立環境研究所主任研究員)

13:50 講演「埼玉県における光化学オキシダントによる植物被害」

三輪 誠 (埼玉県環境科学国際センター自然環境担当部長)

14:30 講演「神奈川県におけるブナ林衰退の原因究明への取り組み」

武田麻由子 (神奈川県環境科学センター主任研究員)

15:10 休憩

座長：北川尚美 (東北大学准教授、学術会議連携会員)

15:20 講演「酸性雨による溪流河川の水質変化」

井上隆信 (豊橋技術科学大学教授・副学長)

16:00 講演「高分解能質量イメージング装置によるエアロゾルの個別粒子分析から判ること」

坂本哲夫 (工学院大学教授)

16:40 講演「植物環境応答のセンシングと空間情報解析」

大政謙次 (東京大学名誉教授・学術会議第2部会員・副部長)

17:20 総合討論

17:40 閉会挨拶 阿尻雅文 (東北大学教授、学術会議第3部会員)

お申し込み先 (当日参加可能) : sano.nobuko@nies.go.jp (国立環境研究所 佐野信子)

問合わせ先 : maono@nies.go.jp (国立環境研究所 青野光子)

主催：日本学術会議 環境学委員会環境科学分科会、化学委員会・総合工学委員会
材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会

共催：国立研究開発法人国立環境研究所、大気環境学会植物分科会
大気環境学会関東支部植物影響部会、大気環境学会酸性雨分科会、酸性雨研究会